

# 山江村「海幸・山幸交流プロジェクト2021」

～令和2年7月豪雨からの復興を目指す「鎮山親水」の取り組み～

## はじめに

山江村は、熊本県の南部に位置し、人口3300人余りの小さな村である。特産物としては栗が有名である。1977年には昭和天皇に献上栗として納められている。村の9割が山地という自然豊かな地域で、農林業が主産業である。また村内には2つの小学校と1つの中学校があり、児童生徒350人が毎日熱心に学んでいる。

### 山江村内小中学校

二つの小学校と一つの中学校

児童生徒数

山田小学校 181人

万江小学校 40人

山江中学校 129人

(令和4年5月現在)



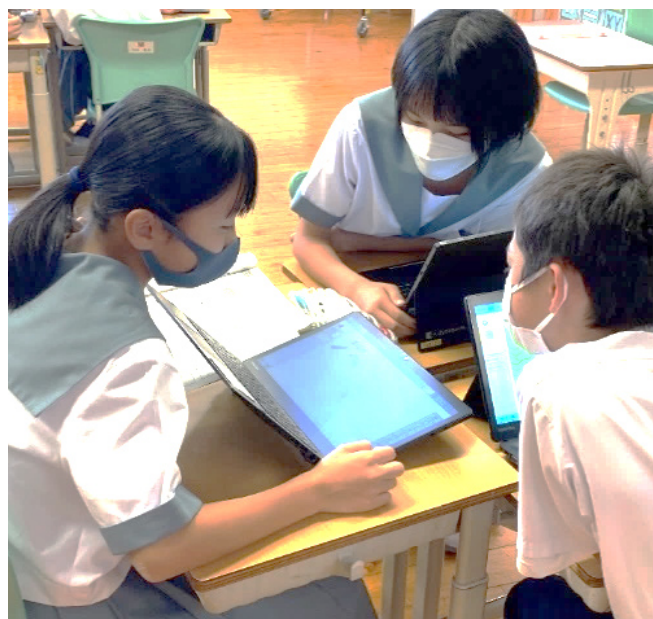
山江村の小中学校

本村は2011年、文部科学省のICT教育活用の調査研究事業の指定を受け、全国に先駆けて学校におけるICT教育の研究に取り組み始めた。

教師の授業改善を図り、子どもたちの学力向上を図りたいとの思いからであった。この10年間でICT教育は子どもたちの主体的な学びを確かなものにし、今では、学習道具の1つとして日常的に活用している。毎年、研究発表会を開催し、全国から300人程度の先生方が参加され、ICT活用について議論が交わされている。

昨年10月には「山江村ICT教育10年の軌跡」と題し、研究発表会が行われ、オンラインでのライブ配信であったが全国から500人程度の参加があった。

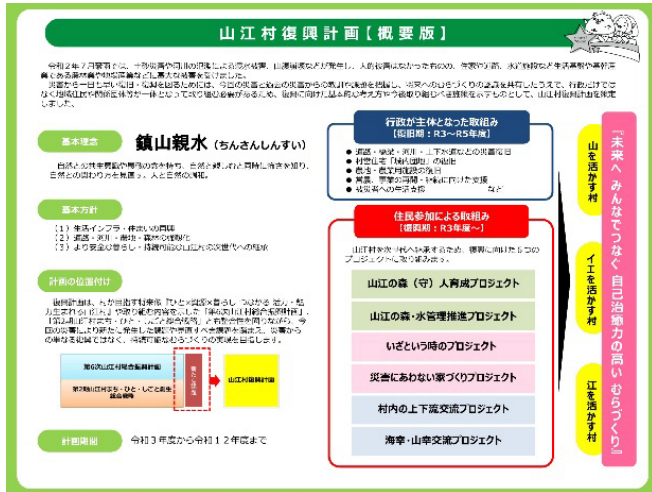
今回のプロジェクトもこれまでのICT教育の取り組みによりスムーズな交流へと繋がり確かな実践を行うことができた。



ICT活用による主体的な学び

## 1. 災害からの復旧・復興

令和2年7月豪雨では、人吉球磨地域全体で大きな被害を受けた。河川の氾濫や土砂崩落で65人が犠牲となり、現在も2名が行方不明である。山江村でも同様に土砂災害や河川の氾濫による浸水被害、山腹崩壊などが発生し、人的被害はなかったものの、住家や道路、水道施設など生活基盤や基幹産業である農林業や地場産業などに甚大な被害を受けた。災害からの一日も早い復旧・復興を図るため「鎮山親水」（自然との共生意識や畏敬の念を持ち自然に親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直す、人と自然との調和）を基本理念とした山江村復興計画を策定した。



川の近くにお住いの方が増水した川の水が堤防を越え、車を押し流した当時の様子をタブレットで動画を見せながら説明された。

その他にも避難所での食事やトイレ事情等にも触れられ、被災当時の住民の方々の生の声を聞くことができた。

改めて災害の怖さを感じ、これから自分たちができることは何かをしっかりと認識することができた。環境保全に努めることの大切さを改めて感じたようである。



国交省及び被災住民からの説明

山江村復興計画

### (1) 被災状況を知る

将来を担う子どもたちが山江村をどう作っていくか考えさせる取り組みとして、子どもたち(小学校5, 6年生)が熊本県や山江村の職員等で作る災害検証及復旧復興委員会の方々に同行し、被災状況を見学した。



万江川の氾濫により滑落した県道

### (2) オンラインによる交流活動

災害状況を目の当たりにした子どもたちは、「どうしたら災害を防げるか」「自分たちができることは何か」などいろいろ議論を交わした。同時に総合的な学習の中で川の上流の被害とともに下流の河口付近に材木やペットボトルなどが流れていて漁業にも影響を及ぼしていること等を学んだ。

特に八代市の河口で漁業を営まれている方から球磨川上流から流れてきた材木の影響で船が出せず生業が成り立たないという生の声も聞くことができた。そこで、今回の災害の主流となった球磨川を介して、上流と下流でつながっている八代市の河口に位置する小学校とオンラインでの環境学習を行った。それぞれの学校で被害の状況を報告し合った。

球磨川の上流に位置する山江村の被害状況、八代市河口の被害状況、そして山江村と八代市が一本の川でつながっていることを知り、今後環境問題や防災について一緒に取り組んでいくことを確認し合った。



オンライン学習を続けていく中で、お互いの学校から実践活動の提案があった。

山江村の小学校からは山を守る活動として一緒に植樹をやりましょうという提案が、八代市の小学校からは小学校近くの河口の清掃活動を一緒にやりましょうという提案がそれぞれの学校からあった。

そこで、山と海のつながりを再認識し、ふるさとの豊かな森、川、海を次世代に引き継ぐことを目指して、海幸・山幸交流プロジェクトに取り組むこととした。



オンラインによる交流授業

## 2. 海幸・山幸交流プロジェクト

### (1) 海幸交流プロジェクト

令和2年の7月豪雨により山などから流出した流木等は球磨川下流域の八代市河口付近の環境にも多大な被害を及ぼし、漁業従事者の船が漁に出られなかったり、漁をする網にも絡みつき破れて使えなかったりしたことなど、八代市河口の小学校とのオンライン学習により学ぶことができた。

そこで、海幸交流プロジェクトは八代市河口付近に流れ着いた流木等を除去する活動に取り組んだ。山江村の子どもたちは上流の流木が海まで流れてきていることに大変驚いた様子だった。約1時間の活動であったがたくさん集められた流木、ペットボトル等を分別したりしながら、環境を守っていくことの大切さにも気づいたようであった。また、持続可能な故郷を創っていくため自分にできることを積極的に取り組んでいくことも誓った。



河口付近の清掃活動をする子どもたち

### (2) 山幸交流プロジェクト

今回の7月豪雨では、山が崩れて多くの木々が流木となって川に流れだすなどの山腹崩壊が発生し、住宅や道路の生活基盤や農林業などに甚大な被害が発生した。そのことから、これまでの学習を踏まえ、子どもたちは森林整備活動を通じて山と海のつながりを再認識し、森林を守り育てていくことの大切さを強く感じた。そこで、八代市の小学校の子どもたちと山江村の小学校の子どもたちで山幸交流プロジェクトとして植樹活動に取り組んだ。山江村の0.2 haほどの山腹にコナラの苗木100本ほどを一本一本思いを込めて植えていった。植樹を終えた子どもたちからは、「植樹で緑に触れ合うことができ、植えた苗木が大きくなるのが楽しみだ。」「自然の素晴らしさや役割を学び、八代市の小学校の友だちとともに豊かな緑を守り育てていきたい。」と将来の災害に負けない森林づくりに使命感を抱いていた。今後もこれらの活動を続けながら災害に強い森林づくりに取り組んでいく。



森を守る植樹活動

## おわりに

令和2年の7月豪雨を機に防災の機運は一気に高まった。また、この災害を次世代へつなぎ、持続可能な村を創るためにも子どもたちの役割は大きい。子どもたちがこの災害を自分のこととしてしっかりと理解し、防災意識と環境問題を考えるいい機会となった。将来、いつ起こるかわからない災害、今後ともSDGSの観点から環境問題にしっかりと取り組むとともに、災害時には今回の経験を活かしリーダーとなって復旧・復興に貢献してくれるものと確信している。

今後もこの海幸・山幸交流プロジェクトを継続しながら交流をさらに深め、環境問題について学習していく予定である。同時に今回の子どもたちの活動が八代市の小学校の地域住民や山江村民の心を動かし、環境に対する関心が大きく高まった。八代市の河口では「河川・浜辺大そうじ大会」が開催されたり、山江村の山林では、山を荒らす鳥獣の一斉駆除や植林活動などの山を守る活動が盛んに行われている。

今世界中で環境破壊が原因とされる災害が数多く発生している。地球温暖化などいろんな影響が関連していると思われるが、今回身近に大きな災害が発生し、一段と危機感を感じている。

今回の活動を通して子どもたちは環境を守っていくことの大切さを学んだ。この子どもたちがこれからの時代、災害のない豊かな環境や社会を創っていかれると信じている。子どもたちへの期待は大きい。



自然を大切にし住みよい地球環境を守るぞ!!